

1 会社概要

商号	〇〇株式会社
代表者	代表取締役社長 〇〇 〇〇
本社所在地 ※1	本社 北九州市小倉北区〇〇×丁目▲番地●号
主な事業所等 ※1	支社 北九州市小倉北区〇〇×丁目▲番地●号
会社設立	昭和〇〇年創業
資本金	〇〇〇〇万円
従業員数	〇〇人
年商	〇億〇〇〇〇万円（令和元年度）
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・〇〇ポンプの製造・▲▲の輸送用機器の〇〇部の製造・業務系システムの開発・改修 など

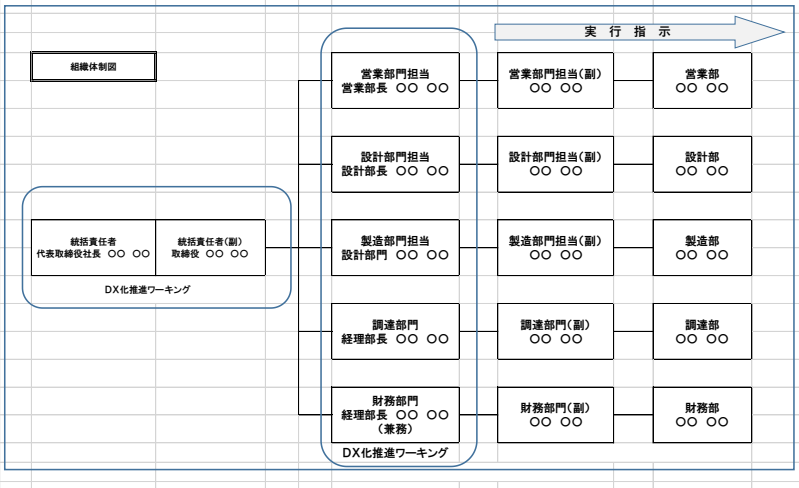
※1 北九州市内に事業所（本社、支店、営業所、工場等）を有していることが分かるように記載すること

2 補助事業の説明

事業名	ERP等システムの導入と社内ネットワーク構築事業	
事業概要	弊社内ネットワークを構築し、各部門（営業・設計・製造・調達など）を一括管理できるERP等のシステムの導入を目指す。	
全体計画	デジタル化の現状	<p>【設計部門（設計管理システム）】 ⇒●●社の○○システム（○○年度に導入○○年度に契約終了）</p> <p>【製造部門（製造管理システム）】 ⇒▲▲社の△△システム（○○年度に導入○○年度に契約終了）</p> <p>【調達部門（在庫管理システム・発注管理システム）】 ⇒システム未導入（エクセルでマクロを組んで管理）</p> <p>【工場内のネットワーク環境】 ⇒有線LANが一部導入</p>
	企業全体の課題	<p>【弊社全体の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調達部門と製造部門の連携がスムーズでなく、適切な在庫管理が困難である。 ・ 営業部門、設計部門、製造部門と連携がスムーズでなく、工場の生産余力や稼働率が見えにくく、受注機会を逃している。 ・ 営業部門や本社から設計・製造の進捗や状況が電話連絡以外の確認方法がない。 ・ 古い設計書等が紙媒体であり、閲覧したい場合は物理的に離れた設計書保管部屋まで探しに行かなければならない。 <p>【設計部門・製造部門の課題】</p> <p>上述のとおり、弊社では設計管理システム・製造管理システムがそれぞれ異なるITベンダーのシステムが導入されている。そのため、双方のシステムの連携がうまくいっておらず、以下の問題点（例示）が生じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設計情報を製造管理システムに落とし込みをする必要があるため、手間・チェック等の工数が膨大にかかる。 ・ 設計部門と製造部門の情報交換が上手くいかず、両部門の打合せを頻繁にしなければならない。 ・ 設計変更を行う際等に、設計部門から製造部門の影響範囲がみえにくい。 <p>【調達部門の課題】</p> <p>また、在庫管理システム・発注管理システムが未導入であり、在庫管理・発注管理を調達部門担当者のエクセルで行っている。</p>
	課題を踏まえたDX化計画	<p>営業→設計→調達・製造→納品の業務を一括管理可能なERP等のシステム導入を行う（令和4年度〇月頃）。</p> <p>工場内のネットワーク（※）整備、本社・営業先⇄工場のネットワークをつなぐ（令和3年度）。</p> <p>（※）今後、工場内についてはIoTを導入のうえ、ERP等システムとの連携やリモート監視の導入などスマート工場化も視野に入れている。よって、工場内のネットワークは拡張性・冗長性のあるネットワークを導入する。</p>

図表や画像などを使って、適宜わかりやすく説明して下さい。

	DX化による目指す姿	<p>【効率化・見える化】 導入したシステムを使用し、各部門の情報共有を行い組織の効率化を行う。また、ネットワークを通じ、物理的に離れた営業先や本社から製造現場の進捗状況が確認できるなど工場見える化を行う。さらに業務の効率化・低コスト化により生まれた人的・金銭的リソースを〇〇部門に注力し、売り上げの向上を目指す。</p> <p>【情報・データ収集】 システム未導入部門にシステムを導入することや各部門を超えたデータ連携を行うことで、今まで得られなかった情報・データが取得できる。この情報・データを用いて、正確な原価の見直しや、今までベテラン社員の経験と勘に頼っていた業務を客観的なデータで見直しをする等、業務のボトルネック改善につなげたい。</p>
今年度の取組み	取組内容	<p>今年度は以下の内容を実施したい（コンサルとの相談含む。）</p> <p>●補助対象</p> <p>【社内のネットワーク整備】 今年度、社内のネットワーク整備を行う。工場内については、前述したが、スマート工場化を視野に入れ拡張性・冗長性があるネットワークの整備を行う。</p> <p>【工場内の端末購入】 現状、工場内に十分な端末が整備されていないため、端末整備を行う。</p> <p>【ERP等システムの検証・操作教育】 ERP導入時期は令和4年度〇月頃であるが、スムーズにシステム導入するために、社内で動作検証や社員の操作教育等を行う。</p> <p>【紙媒体のデータ化】 現在、旧システム以前に設計書等が紙媒体で保管されている。これをデータ化し（委託予定）、システム導入後に新システムから検索可能にする。</p> <p>●補助対象外</p> <ul style="list-style-type: none"> 社内全体のDX化計画の検討（社内DX化推進WGによる検討）
	期待される効果	<p>システムの導入される時期が来年度のため、今年度の効果は無い。しかし、来年度のシステム導入以降は以下の効果が期待できる。</p> <p>【短期的な効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 営業部門 労働時間〇〇%削減 製造部門 労働時間〇〇%削減 設計部門 労働時間〇〇%削減 調達部門 労働時間〇〇%削減 <p>上記により生じた人的リソースは〇〇部門に注力する。 ※詳細・根拠は別添の資料のとおり</p> <p>【長期的な効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記システム導入により詳細な業務データ収集が可能となる。これにより、経営陣のよりきめ細やかな経営分析が実現し、コンサルに依頼するなど経営分析のアウトソーシングが可能となる。 前述したが、今回拡張性・冗長性があるネットワークを工場内に導入するため、ERP等システムとの連携やリモート監視等を導入したスマート工場化が実現可能となる。

<p>推進体制</p>	<p>※推進責任者、経営者の関与、関係部署の関与など</p>	 <p>※代表取締役をトップとしたワーキンググループを構築、全ての部門の部長以上が参加し、DX化推進の速やかな実行を行う。</p>
<p>モデル性</p>	<p>全体計画のモデル性</p>	<p>① 各部門を一括管理できるシステムの導入 今まで各部門の情報連携がスムーズに取れないことで生じていた業務のボトルネックの解消が実現する。</p> <p>② スマート工場を視野にしたネットワーク構築 来年度はシステムの導入のみであるが、今後は工場の機器にIoTを導入したうえでERP等システムとの連携やリモート監視等の導入し、スマート工場化を推し進める予定である。</p>
<p>モデル性</p>	<p>今年度の取組みのモデル性</p>	<p>① 紙媒体のデータ化 現在、紙媒体の設計書等が一部屋分保管されている。この紙媒体をデータ化することで、過去の設計書等を探しに行く手間が無くなるほか、設計部門の業務スピードが格段にアップする。また、現在設計書等が置かれている部屋が空き、会議室に利用できるなどの物理的な利益も得られる。</p>
<p>モデル性</p>	<p>推進体制のモデル性</p>	<p>① 代表取締役をトップとするDX化推進のワーキンググループの構築 DX化の取組みを会社全体で事業を進めるために、代表取締役をトップとしたワーキンググループを構築する。 ワーキングには全ての各部門の部長が参加することとし、ワーキンググループを定期的に行い、各部門に必要な実行指示を行う。DX化をスピード感を持って推進するため、指示経路を明確化する。</p>

※ 書ききれない場合は、複数の用紙に記載すること。

※ 必要に応じて別紙を用いること。

図表や画像などを使って、適宜わかりやすく説明して下さい。